

長期戦略:テーマ 「内部進学者の増加」

提出日 2022年8月24日

担当部署

Ⅱ.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	柳屋常任理事(法人) (総務部)	実施計画 の 担当部署	千里(SIS)、入学センター
-----------------------	---------------------	-------------------	----------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
4-(3)-② 千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持(50%以上)	2019年度	2024年度	必要なし	不要
<p>内容</p> <p>合併以来、大学への内部進学率は向上し、2018年度入試で初めて50%を超えた。進路の方向性を自分で「選ぶ」ことを根幹にした進路指導体制で進学率が増加した背景には、1)SGHの取り組みその他により、高校在学中に、大学での学びへの理解と憧れを具体的で確かなものにする生徒が増えたこと、2)大学の協力により各学部の説明や授業体験の機会が増えたこと、が挙げられる。今後もこの2点を強化することで進学率維持を目指す。</p> <p>加えて検討すべきこととして、現状では本大学に進学しているのは、主にSIS生徒の中間層ということになるが、</p> <p>A) 上位層の進学率を高めるためには大学の受け入れ態勢を整えてもらえるように協議する必要がある。</p> <p>B) 推薦入学者の学力レベルを維持し、千里国際高等部からの入学者を増やすため、現状で推薦されない層の生徒に対する指導を強化し、「学びに向かう力」の評価などを含めた校内選考基準の多様化などの見直しを検討する。</p>				

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	大学を理解するガイダンス回数 2022年度以降は、KGUとの共催イベント実施回数に指標を変更する	SGH指定2019年度での終了後、この間に築いた大学との連携の体制を維持・向上。大学教授による講演会等の回数 高校1・2年生時に大学・各学部や入学後の留学、2019年度から始まる国際教職プログラムを理解するためのガイダンス開催回数 ※2022年度以降は KGU と共催のイベント実施回数を増やし、KGU への進学意欲を増加させる
指標2	成績上位者の対応学部数	英語上級者・英語以外の外国語中/上級者の受け入れ対策の対応学部数 留学制度の予約制などを取り入れる対応学部数 ※KGU 進学者へのインタビューを実施し、動画などで在校生に情報提供することで進学意欲を増加させる
指標3	校内選考基準の見直し	校内選考基準の見直しの有無 ※基準を達成できる生徒数を増やす

目標1<指標1> 大学を理解するガイダンス回数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	前年度と同様のガイダンス実施に加え、神戸三田キャンパスでの参加生徒数を増やす	西宮上ヶ原・神戸三田キャンパス共に、ガイダンス回数を増やす 5名程度の大学教員に講演等で千里国際キャンパスに来てもらう	8名程度の大学教員に講演等で千里国際キャンパスに来てもらう	大学との共催イベントを実施する	進学状況などを評価し、大学との共催イベント実施を増やす	進学状況などを評価し、大学との共催イベント実施を増やす
実績	ガイダンスには学年全体で参加 神戸三田キャンパスに参加する生徒の増加は実現しなかった	15回のガイダンスやイベントを計画し、うち10回について実施。 (コロナで中止5回)	2名の大学教員による特別講座「ビジネスモデル」と「AI活用」、「火星移住計画」のワークショップの開催			

目標2<指標2> 成績上位者の対応学部数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	言語教育研究センターとの協議 (英語・その他の言語への対応学部数増)	国際連携機構との協議 (留学の予約制度など対応学部数増)	国際学部と SOIS との協議 (英語だけで学ぶ学部体制を共同で確立)	卒業生インタビューの実施 卒業生インタビューの内容を在校生に提供する	継続	継続
実績	言語教育研究センターとの協議は実現していないが、国際連携機構との協議では CEFR-B2以上の生徒への優先的な海外研修、留学参加が話題に上がった。また、理工学部の再編にあたり、建築学部の説明会を実施し、SIS の教員による STEAM チームと大学の理工との今後のより密接な連携についても協議された。	コロナ禍のもと、実現できていない	なし			

目標3<指標3> 校内選考基準の見直し

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	推薦基準検討WG	新基準確定	継続	指導強化と3年ごとの基準確認・見直し	院内推薦基準を満たす生徒数を増やす	院内推薦基準を満たす生徒数を増やす
実績	変更点として、 ・推薦条件としての GPA を 4.0 から3.5に ・夏に候補者となった後の二学期間に難易度の高い授業履修を必須とする。具体的には、入学予定の学部に関係する科目の履修と、SGC の論文完成。	前年度設定した条件に基づいて実施	継続実施			

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大学を理解するガイダンス回数 2022年度以降は大学との共催イベントの実施	策定段階	前年度と同様のガイダンス回数を維持+KSCのイベント参加生徒数を増やす(+30人)	千里キャンパスのガイダンス数増(+1回)、KSCのイベント参加生徒数増(+40人) 5名の大学教員に講演等を依頼	KSCのイベント参加生徒数を増やす(+50人) 8名の大学教員に講演等を依頼	大学との共催イベントを実現する	大学との共催イベントの実施回数を増やす
	2023年3月末段階	—	—	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	大学との共催イベントの実施回数を増やす				
	2023年3月末段階	—				
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
成績上位者の対応学部数	策定段階	言語教育研究センターとの協議 (英語・その他の言語への対応学部数増)	国際連携機構との協議(留学の予約制度など対応学部数増)	国際学部とSOISとの協議 (英語だけで学ぶ学部体制を共同で確立)	卒業生インタビューの実施	卒業生インタビューの実施 卒業生インタビューの内容を在校生に提供する
	2023年3月末段階		言語教育研究センターとの協議(英語・その他の言語への対応学部数増) 国際連携機構との協議(留学の予約制度など対応学部数増)	—	—	—

		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	卒業生インタビューの実施 卒業生インタビューの内容を 在校生に提供する				
	2023 年 3 月 末段階	—				

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	
校内選考基準の見直し	策定段階	指導強化 推薦基準検討 WG	指導強化 新基準確定	指導強化	院内推薦を満たさない可能性 がある生徒に向けた個別対 応の徹底	院内推薦を満たさない可能性 がある生徒に向けた個別対 応の徹底	
	2023 年 3 月 末段階	—	—	—	—	—	
			2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	院内推薦を満たさない可能性 がある生徒に向けた個別対 応の徹底					
	2023 年 3 月 末段階	—					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	<p>院内推薦生徒数・率共に増加。100 名中 57 名が大学に進学（院内推薦以外の入試も含む）し、それは卒業生徒数の 57%と、過去最高の数値である。</p> <p>目標 1 については、回数を維持することができた。KSC でのイベントには学校行事との関連で予定が合わず参加生徒数増は達成できなかった。</p> <p>目標 2 については、言語教育研究センターとの打ち合わせを実現できなかった。</p> <p>目標 3 については、理科担当による理系進学希望生徒への補習を実施し、各教科での指導を強化することができた。</p>
2020 年度	<p>コロナ禍によりガイダンスやイベントの回数（特にキャンパスを訪問してのもの）はほぼ実施されなかった。院内推薦の選考基準については、見直したものにより実施した。</p>
2021 年度	<p>院内推薦で 57%の生徒が関西学院大学に進学（2022 年 4 月実績）、そのうち 47%は GPA が A レベル（4.3 以上）。</p>
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	<p>当初計画通り進める予定。</p>
2020 年度	<p>当初の計画通り進める予定ではあるが、コロナ禍のため、当初予定していた国際連携機構との協議（留学の予約制度など対応学部増）について今年度中に実施できるか課題である。</p>
2021 年度	<p>当初の計画や指標は大学の組織に依存する内容が多かった。これを、本校内で実施あるいは本校が主体的に実施できるものに修正していく必要がある。</p>
2022 年度	<p>当初立てられた実施計画、指標、ロードマップの有用性や必然性に疑いが残るが、SIS が関西学院の一員として大学とより密接な関係を構築することは第一義として認識する必要がある。その具現化のための方法を探り実践していく。</p>
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018年度	大学を理解するガイダンスの実施を認めます。ただし、講演会・送迎バス代については、従来より SGH 補助金にて対応していることから、最終年度である2019年度も SGH 補助金で対応してください。
2019年度	大学を理解するガイダンスの実施を認めます。ただし、講演会・送迎バス代については、従来より SGH 補助金にて対応していたことから、下記 4-(4)-②に組み込んでください。
2020年度	大学を理解するガイダンスの実施を認めます。ただし、講演会・送迎バス代については、従来より SGH 補助金にて対応していたことから、下記 4-(4)-⑤に組み込んでください。
2021年度	—
2022年度	—
2023年度	
2024年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・大学として、SIS 生徒の KSC への訪問などに取り組んでおり、引き続き大学、SIS の協力が必要である。 ・大学によるオンライン型授業の提供等の実施可能性を検討する必要がある。 ・「留学の予約制」や「英語のみによる学位取得プログラムの拡充」など優れた生徒の確保につながる施策を検討する必要がある。 	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> ・SIS の生徒を対象とした「学びの先取り」(オンライン教育を含む)の検討 ・大学における、優秀な SIS 生のための「留学の予約制度」「英語での学位取得プログラム拡充」の検討 ・KSC(総合政策学部)との連携の具体策の検討

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	